



～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌Design号外14号です。表面は、5月16日（木）に開催した第22回住民医療フォーラムの報告です。裏面は、“彩り”からのお知らせと、地域の皆様から頂戴したご要望・ご意見に対する改善策の報告です。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

第22回 住民医療フォーラムの報告

令和元年5月16日（木）、当医療センター9F会議室におきまして、第22回住民医療フォーラムを開催致しました。今回は「住民医療の新たなステージへ！『地域医療支援病院』資格取得に際して」という演題で行い、地域住民の方や行政他関係機関の職員など含め約110名の方にご参加頂きました。

令和最初の住民医療フォーラムにこの演題を選んだ理由は、これから迎える未曾有の「超高齢社会」を地域の皆さま（関係機関や住民の方）と是非一緒に考えていきたいとの思いからです。



第一部は、はじめに当院中井院長から、『地域医療支援病院』についての概要、また地域医療支援病院資格取得後の当院が目指す方向性について説明させて頂きました。京都中部総合医療センター辰巳院長から

は、京都府全体から見た医療状況にかかる統計や地域別に見た特徴などご説明頂き、また南丹医療圏と山城南医療圏との比較なども詳細なデータを交えてお話頂き、当地域の課題や当院の目指すべき方向性について見えてきたように思います。



第二部は、「未来にはばたけ！住民医療！」をテーマに相楽医師会 山口会長、山城南保健所三沢所長、辰巳院長・中井院長によるパネルディスカッションを行いました。山口医師会長からは、当地域において相楽医師会を中心に多職種協働で活躍している「きづがわねっと」の報告、三沢保健所長からは、

山城南地域の未来について、医療介護需要の予測など含めたお話をして下さいました。

皆様もご存じのとおり現在日本は、猛烈なスピードで高齢化が進行しています。高齢になり、例えば要介護状態や認知症になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体となって提供される仕組み（地域包括ケアシステム）を作り上げていくことが急務です。制度や仕組みについては、都道府県や市町村といった行政が、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要ではありますが、それと同時に地域住民お一人お一人が今後について考えていく意識改革も重要です。

本日の住民医療フォーラムを契機に、「この地域における地域包括ケアシステム」を少しずつでも地域の方々と一緒に考えていく道筋ができればと思っております。当院も地域医療支援病院として、地域包括ケアシステムの一翼を担い活動して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。（地域医療推進部 副部長 中村 真史）

地域包括ケア病棟“彩り”吉崎看護師長より

～ こんな企画を考えています ～



毎月1回、担当スタッフによる「輪投げ大会」や「玉入れ競争」などのレクリエーションを企画運営しています。今年は、7月に花火大会の鑑賞会（病棟から鑑賞）、10月後半には秋祭り（運動会）を予定しています。秋祭りには、地域包括ケア病棟に転棟予定の患者さんや興味を持っておられる患者さんも参加して頂けるようにと考えています。今後も、地域包括ケア病棟“彩り”をよろしくをお願いします。（看護師長 吉崎 浩美）

地域の皆様から頂戴したご意見・ご要望について その④

地域のケアマネジャーの皆様や訪問看護ステーションの皆様のところへ訪問させて頂いた際、頂戴したご意見・ご要望（一部）と改善策をお知らせします。

他院で手術を受けられた高齢の患者さんで、回復期リハビリ病院でのリハビリは体力的に厳しいため、地域包括ケア病棟で受け入れしてもらえませんか。（ケアマネジャー）

他医療機関で治療後の患者さんでも、ご自宅への退院に向けてリハビリ目的や住環境の整備目的で受け入れさせて頂いています。“彩り”では、現在できる動作でどのように介護していくかという視点でご自宅復帰を支援していきます。遠慮なくお気軽にお問い合わせ下さい。

（地域医療連携室 主任 中嶋 庸介）

地域包括ケア病棟“彩り”では、夏期休暇のため、一時的に在宅医療が途切れる場合などに受け入れをさせて頂いております。お気軽にお問い合わせください。（中野・中嶋）

地域医療連携室より

～ Yesterday ～

以前少し触れたことがあります。私は学生時代に白血病を発症し、日本骨髄バンクに登録しているドナーの方から骨髄移植を受けました。現在、日本骨髄バンクの「草の根語り部事業」というボランティア活動をしていて、依頼があれば看護学生や高校生を対象に自身の体験談を話しています。

昨年、私が治療を受けていた医療機関で体験談を話す機会に恵まれ、当時、私の研修医だった先生や大学院生だった先生が体験談を聴きにきて下さいました。約19年ぶりの再会でしたが、私のことをよく覚えて下さっていて、会話をしながらしばらく懐かしさに浸りました。19年前のことが昨日のことにように思い出されます。そして、生きていて良かったと思える瞬間でした。

この19年間は、振り返るとあつという間でした。そして、これから先の19年も、振り返るとあつという間の19年間なんだろうと思っています。良いことばかりではないと思いますが、生きていることに感謝し、地域の皆様と一緒に令和の時代を生きていきたいと思っています。



（地域医療連携室 室長 南出 弦）